

# 学校教育への博物館からのアプローチ

## ー博物館から学校への学習資源提供の取り組みー

鳥取県立博物館 学芸課 田中博昭

### 1. はじめに

博学連携の取り組みは全国的に行われ、多くの博物館から地域の学校と連携した数々の事例が報告されている。鳥取県立博物館では「博物館を利用したいのだが、何となく敷居が高いイメージがあってなかなか足が向かない」という学校からの声を受け、博物館を青少年や学校に親しみを持って活用してもらうため、従来から実施している「展示解説・館内授業」・「移動博物館」・「学芸員派遣」・「資料の貸し出し」等の事業に加え、中高生向けの講演会である「サイエンスレクチャー」及び教員向けで授業に役立つ「学校の先生向け講座」等を新たに実施した。また、本年度は学校教育関連機関と連携した取り組みも多く見られた。

主として学校を対象に、博物館利用の一形態の提案という形で実施した本取り組みの概要について、海の分館である「山陰海岸学習館」の活動状況も含めて報告する。

### 2. 総合博物館としての取り組み

#### 1) 鳥取県立博物館の歩み

鳥取県立博物館は、県民の教育及び文化の発展に寄与するための施設として久松山下鳥取城跡内に設立され、昭和47年10月1日に開館した総合博物館である。

常設展示は「地学・生物」、「歴史・民俗」、「美術」の3分野に分かれ、3,000点余の資料により、鳥取県の自然と歴史や美術をわかりやすく紹介している。また、特定のテーマに基づいた企画展を、毎年数回開催するほか、移動博物館、講演会、講座、見学会などの教育普及活動を実施している。さらに、展示の解説書、年間の活動を紹介する年報、学芸員の研究成果を報告する研究報告、館蔵品を紹介する所蔵資料目録及び普及誌「鳥取県立博物館ニュース」などを出版している。

その中で、本年度は従来の博学連携を含めた教育普及活動に加え、地域の青少年の科学教育を推進することや、学校教育への支援をより進めることを目的とした「学びの広場推進事業」を新たに計画・実施した。

#### 2) 鳥取県立博物館のミッション

「鳥取県の自然、歴史、民俗、美術等について、展示、講演、体験活動などにより、県民

が楽しく学び、感動を覚えるような「魅力ある県立博物館」づくりを推進する」ことをミッションとし、学校との連携においては「学びの広場推進事業」として、学校へのより魅力あるコンテンツの提供に努めた。

### 3. 鳥取県立博物館の博学連携

#### 1) 従来からの取り組み

まず、鳥取県立博物館が従来から取り組んでいる学校支援活動について、本年度（12月末日まで）のまとめを報告する。

##### 【1】展示解説・館内授業

**[概要]** 学校の教科や領域の授業の場として、博物館を教室として利用できる。（授業形態：先生が授業・学芸員が授業・T T授業）

**[メリット]** ①資料や作品、標本など「モノ」をとおして学習できる。

また、展示されていない博物館資料も活用できる。

②資料単独ではなく、系統だった展示の中で学習できる。

③学校の先生方の教える力と、学芸員の持つ専門的な知識との相乗効果が期待できる。



復元民家内での授業風景

##### **[実績]** ■鳥取県立博物館（自然分野、歴史・民俗分野、美術分野）

校 種	利用団体数	利用のべ人数	備考
大 学	1	27名	鳥取大学地域学部
高 等 学 校	3	61名	
特別支援学校	1	6名	県立鳥取盲学校
中 学 校	0	0名	
小 学 校	20	858名	
教 職 員	1	12名	小学校職員研修

##### ■山陰海岸学習館（自然分野：海洋生物領域、地学領域（山陰海岸ジオパーク））


校 種	利用団体数	利用のべ人数	備考
大 学	8	262名	
高 等 学 校	4	106名	
特別支援学校	2	39名	
中 学 校	3	156名	
小 学 校	40	1763名	

## 【2】移動博物館



[概要] 以下のテーマで学校のホールや空き教室をミニ博物館にすることができる。学芸員派遣と組み合わせて移動博物館の展示解説も可能である。

[内容]

### 自然分野

タイトル	内 容	移動博物館の様子
とっつりの身近な野鳥	鳥取県で観察できる野鳥のうち、キビタキやオシドリ、オオタカなど約20種を剥製で展示。彼らの姿かたちやくらしぶり、観察のポイントについて紹介。	 鳥取県の化石
鳥取県の化石	鳥取県内で産出した動物（魚・貝類など）や植物の実物化石を展示。個々の化石の解説にとどまらず、化石の研究からわかった鳥取県の地史や動植物の進化についても紹介。	

### 歴史・民俗分野

タイトル	内 容	移動博物館の様子
文字が語る 古代・中世のとっつり	普段目にすることのない、奈良時代から戦国時代までの古文書や銘文などの文字資料を写真パネルで紹介。各時代の鳥取県内の様子を解説。	  
鳥取県の祭り・行事	鳥取県内に今も伝承されている祭り・行事をパネルで紹介。一年を通じて、地元で行われている民俗行事の見つめ直しに活用。	
変わりゆく郷土 写真で見るとっつり 1968-2008	昭和43（1968）年から平成20（2008）年まで、5年ごとに同一地点を撮影した航空写真と地上写真をパネルで紹介。40年間の郷土の変化を一目で確認できる。	
鳥取県の狛犬	県内の神社の参道などに設置されている石造の狛犬の中で、ユニークなもの・特長のあるものを写真パネルで紹介。	

[実績]

開催施設	テーマ	展示期間	実績人数
鳥取県立米子西高等学校	とっつりの身近な野鳥	4月24日～5月8日	350名
鳥取市立美保南小学校	鳥取県の化石	5月13日～5月17日	152名

### 【3】学芸員派遣

自然・人文部門

[概要] 児童生徒を対象とする講演会・出前授業、野外学習等の講師として学芸員を派遣できる。

[実績] ■鳥取県立博物館（自然分野、歴史・民俗分野、美術分野）

テーマ	派遣先	期日	担当
地域の岩石・化石学習	日南町立日南小学校	9月11日	地学担当学芸員
	岩美町立岩美北小学校	10月25日	
	鳥取市立宮ノ下小学校	11月28日	
	八頭町立隼小学校	12月19日	
鳥取砂丘	八頭町立隼小学校	11月7日	地学担当学芸員
	琴浦町立東伯小学校	11月26日	
鳥類の体のつくり	湯梨浜学園高等学校	10月31日	動物担当学芸員

■山陰海岸学習館（自然分野：生物領域、地学領域（山陰海岸ジオパーク））


派遣先	利用団体数	主な学習テーマ	担当
大学	3	ジオパークの活用・地球科学実験実習	海洋生物担当学芸員 地学担当専門員
高等学校	0		
特別支援学校	2	総合的な学習の時間（海の生きもの・環境）	
中学校	5	イカの生態講座・解剖実習	
小学校	6	校外学習・総合的な学習の時間	
その他学校関連団体	7	ジオパーク解説・磯の観察会	



美術部門：館外普及事業「アーティストとつくろう！」

[概要] 県内のアーティストを講師として学校に出向き、アーティストと出会う場を提供。

- レクチャー編・・・本物の作品を鑑賞しながら、アーティストの制作意図を学ぶ。
- ワークショップ編・・・本物の作品を鑑賞し、アーティストと一緒に制作する。

[実績]

項目	講師及び内容	回数	校種・学年	人数	活動の様子
レクチャー編	染織家 村穂久美雄さんと、後継者研修を受けた山下智香さんが講師。収集品の一部を見ながら山陰の手仕事の特徴やその美について話を聞いた。また、会場に糸つむぎ機や実くり機等を搬入し、糸にまつわる作業の体験を行った。	2	大山西小学校 第6学年	65名	
			大山小学校 第5学年 第6学年	40名	

項目	講師及び内容	回数	校種・学年	人数	活動の様子
ワークショップ編	鳥取市在住のフナイタケヒコ氏を講師として、子どもたちとともに制作を実施。子どもたちは昨年度フナイ展開催時に来館し、展示室で鑑賞の授業を行っている。本年度はフナイ氏を学校に迎え、図工の時間に子どもたちの制作に関わっていただいた。	2	醇風小学校 第2学年	54名	 <p>第1学年時・鑑賞 (博物館にて)</p>  <p>第2学年時・制作 (醇風小にて)</p>
計		4	3校	159名	

#### その他の講師派遣

[概要] 美術部門普及事業で、大学や各種研究会での講師としての派遣実績まとめ。

[実績]

派遣先	期日	内容	担当
鳥取大学地域学部集中講義(造形学習)	9月11日～9月13日	講師(30時間)	美術担当専門員
中部小教研図画工作部会研修会	6月 5日	指導助言	
中部小教研大会図画工作部	11月 6日	指導助言	
面影小学校職員研修図画工作部会	7月30日 11月28日 12月 5日	指導助言	

#### 【4】資料貸出し

[概要] 博物館で収蔵する資料や教材を、学校からの希望に応じて貸し出すことができる。

自然部門：[実績]

貸出先	学年	期間	活用方法
鳥取県立鳥取盲学校		6月10日～6月28日	さわれる海洋生物資料(貝類・ヒトデ類)
鳥取市立桜ヶ丘中学校	第2学年	6月22日～6月28日	頭骨標本(ニホンジカ・ホンダギツネ)
湯梨浜学園高等学校	選択美術	10月23日～11月1日	鳥類剥製(ウッドカービング参考資料)

美術部門：[実績] レンタルアートグッズ「アートカルタ」

貸し出し校	学年	時期	活用方法
東郷町立東郷小学校	第6学年	6月	絵札を見ながらカルタの読み札をつくり、鑑賞の授業に活用。
東郷町立東郷小学校	第5学年	10月	絵札から作品を選択し、仮想の美術館をつくり解説をする。
八頭町立八東中学校	第1学年	11月	絵札を見ながらカルタの読み札をつくり、鑑賞の授業に活用。

## 2) 新たな取り組み ～「学びの広場推進事業」～



平成25年度より、博物館が地域の青少年（中高生）や学校により親しみを持って活用してもらう事を目的とした「学びの広場推進事業」を実施した。本事業は細事業として「青少年のための科学教育推進事業」及び「学校のための博物館推進事業」で構成されるが、以下にその詳細を報告する。

### ●「青少年のための科学教育」推進事業

#### 【1】子ども向け講座

【概要】 従来から実施している普及講座のうち、参加対象を小中学生に限定して設定し、授業で習う基礎的な実験・観察・ものづくり・ワークショップについて、保護者とともに体験する場を提供した。



#### 【実績】

講座名	内容	参加人数	活動の様子
自然 「顕微鏡で楽しむ ミクロの世界」	顕微鏡の使い方を学習し、実際に小さな生物や細胞などを観察。知られざるミクロの世界を楽しむ。	19名	
自然 「自作天体望遠鏡で 星を見よう」	自作の天体望遠鏡で天体観測を実施。自分でつくった天体望遠鏡で、夏の星座を観測。	22名	

#### 【2】サイエンスレクチャー（科学講演会）

【概要】 世界的に有名な科学者、鳥取県在住あるいは縁のある科学者による講演会を実施。

#### 【実績】





講演会名 及び 演題	講師 及び 内容	参加人数	講演会の様子
「白川博士講演会」 私の歩んだ道 ～自然に学ぶ楽しさ～	講師: 白川 英樹 博士 筑波大学名誉教授 ノーベル化学賞受賞 内容: 科学の素晴らしさや、 学問に取り組むことの 大切さなど、自然から 学ぶことの楽しさにつ いてお話しいただい た。	講演: 223名 中継: 11名	
「田邊博士講演会」 ナシ産地鳥取で栽培技術と 品種の改良に取り組む	講師: 田邊 賢二 博士 鳥取大学名誉教授 内容: 日本ナシの品種改良や これまでの研究につ いての話を中心に、自然 探求のおもしろさや研 究成果の社会的意義に ついてお話しいただい た。	講演: 37名 中継: 23名	

● 「学校のための博物館」推進事業

【1】学校の先生向け講座

[概要] 博学連携の一環として小中特別支援学校の先生方を対象に、学校の授業などで活かすことのできる講座を「学校の先生向け講座」として実施した。

[実績]

テーマ	内容	定員	参加実績	講演会の様子
自然 「石ころ図鑑作成(川原編)」	川原(千代川和奈見)で石ころ図鑑を製作。教科書に載っている主な岩石を採取してつくった実物図鑑が、実際の授業で活用できる。	10名	5名	 石ころ図鑑作成(川原編)
自然 「石ころ図鑑作成(海岸編)」	海岸(岩美町大谷海岸)で石ころ図鑑を制作。教科書に載っている主な岩石を採取してつくった実物図鑑が、実際の授業で活用できる。	10名	2名	 石ころ図鑑作成(海岸編)
自然 「先生のための天体望遠鏡活用講座」	学校の天体望遠鏡を持参。天体望遠鏡で使い方の説明の後、持参の天体望遠鏡で実際に天体観察を実施。	10名	3名	 天体望遠鏡活用講座
人文 「お金をつくろう！」	低融点金属を使用。教科書に載っている「和同開珎」のつくり方を学習。	10名	2名	 お金をつくろう
美術 「落書きばんざい!(秋編)」	自由なアートが創造的な空間を作り出す。アートをつうじて子どもたちの感性を再発見。	10名	0名	

### 3) 他機関と連携した学校教育支援（教員支援）

本年度は、年度当初から計画していた事業の他にも、学校教育支援として他機関と連携して実施した取り組みを多く実施した。以下はそのまとめである。

[概要] 博物館以外の他施設及び教育団体と連携した学校教育支援（教員支援）の実施。

[実績]

連携先	事業名	内容	参加実績	連携活動の様子
鳥取市 小学校教育 研究会 理科部	夏季研修 フィールドワーク 場所：美敷水源池	テーマを『身近な自然の観察～生き物のつながりを見つけよう～』とし、理科の学習における五感を使った自然観察の方法について講義。	70名	 小教研フィールドワーク
鳥取大学	教員免許更新講習	大学での講義の後博物館に移動、自然展示室にて資料を見ながら生物多様性・生態系サービスについてまとめ、プレゼンを実施。	20名	 教員免許更新講習
高等学校	初任者研修 (校外研修)	地域理解・社会理解を深めることを目的とした校外研修。博物館・山陰海岸学習館において博物館と学校教育・社会教育の関連について、講義及び展示資料の解説を通して学んだ。	4名	 サイエンスパーク「岩石図鑑づくり」
鳥取県教育 センター	サイエンスパーク	教育センターが理数教育の推進を目的として開催する事業に連携協力。 下記の展示及びワークショップを実施した。 ・ミニ移動博物館 (野鳥・化石・きのこ) ・3D映像上映 (「大地と海の物語」) ・ワークショップ 「岩石図鑑づくり」 「先生のための 天体望遠鏡活用」	岩石 7名 望遠鏡 11名	 サイエンスパーク「天体望遠鏡活用」
大山町教育 委員会 幼児教育課	大山町 保育士合同研修会	大山町内の保育士を対象に実技を通して、表現や鑑賞のレクチャーを実施	81名	 大山町保育士合同研修会



## 4. まとめ

本研究発表会テーマの副題である「ー博物館は自立・協働・創造をどう担うのかー」に関連して、鳥取県立博物館として「学校教育を支援する新たなコンテンツの創造」という観点で取り組んだ以上の内容について、すでにそれぞれの地域で事業化して実施しているという館が多いと考える。そのような中、博学連携の新たなコンテンツの開発・実施に遅ればせながら取り組んだ当館の活動を報告させていただいた。しかしながら、様々な新規の事業に取り組みはしたものの、学校の実態や学校が博物館に期待するニーズなど、その把握が不十分なまま見切り発車して実施したことも事実である。そのことを踏まえ、次年度以降の課題として、博物館の学校利用に関するニーズ調査を実施することにより学校の要望を現事業へ反映させることだけでなく、その調査結果から学校利用促進に向けての博物館活用プログラムの開発や、来年度より本格化しつつある学校土曜日授業実施に向けての博物館利用促進モデルの開発などについて検討を進めると同時に、学校利用促進に向けての学校広報の充実など、学校との連携をさらに深めていくことが今後の課題である。